

様式2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 青谷 高等学校

重点項目	地域連携	提出日	令和4年4月22日
------	------	-----	-----------

1 学校目標	
人づくり（キャリア教育の推進） ～自己肯定感を育み、社会で信頼され、社会に貢献する人材の育成～	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>(1) 地域に関する学習や地域行事への参加などを通して、地域の中で主体的に生き、地域に参画・貢献できる姿勢・態度を養うとともに有用感を高める。</p> <p>(2) 学習成果をまとめたり、発表したりすることや、さまざまな場面で企画、開発、販売などに携わる体験を通して、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を養う。</p> <p>(3) 地元企業や地域の人々と連携した取組を通じて、人間関係形成力、社会参画力を養う。</p> <p>(4) ボランティアやその他地域連携に係る取組へ参加することを通じて、充実感や達成感を味わい、自己肯定感を高める。</p> <p>(5) 地域とのかかわりを通じて、地域から応援される学校づくりを推進する。</p> <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域活動（地域行事やボランティア活動等）に参加した生徒の割合が、全生徒の5割以上である。 ○地域活動に参加して自己肯定感が高まったと感じる生徒の割合が、参加した生徒の8割以上である。 ○地域活動等で関わった地域の方々から「青高生は地域に参画・貢献できている」と肯定的に評価される割合が8割以上である。 	<p>◇課題探究において、地域資源の活用方法や地域課題の解決方法を考案、提案し、地域から協力を得ることができた。</p> <p>◇課題探究成果発表会や青谷学ポスターセッションを実施して、コミュニケーション力やプレゼンテーション力を養うことができた。生徒の自己評価は次のとおりであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力が向上した：90% ・プレゼンテーション力が向上した：93% <p>◇課題探究や青谷学での学習活動をとおして、人間関係形成力や自己肯定感を高めることができた。</p> <p>◇地域の方を外部講師として招聘することで、地域の新たな魅力発見や、興味関心を高めることができた。</p> <p>◇草花プランターを飾る地域美化活動等、学校の各種取組を肯定的に評価し、学校を応援する声があった。</p> <p>◇第15回全国高校生歴史フォーラム（地歴甲子園）において、最高賞の「知事賞」を受賞。</p> <p><数値結果></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域活動が中止となり実施できなかった。
3 実施事業	
<p>【高等学校課事業】 該当事業なし。</p> <p>【独自事業】</p> <p>(1) 青谷学</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校設定科目「青谷学」（2年次） →地域の人材を外部講師として活用し、地域の自然・歴史・文化・産業を学習。 <p>(2) 課題探究</p> <ul style="list-style-type: none"> ○総合的な探究の時間「課題探究」（3年次） 	

○探究テーマ及び概要

	テ ー マ	概 要
1	青谷海岸の鳴り砂	青谷海岸の鳴り砂の現状を分析するとともに、景観維持策や鳴り砂の活用方法を考察。
2	青谷の樹木	青谷に生息する樹木を調査し、地球温暖化と自然の多様性に樹木がどう関係しているかを考察。
3	弥生土器の研究	土器づくり体験をとおして焼成方法を学びながら土器の黒斑を分析し、青谷上寺地遺跡出土の弥生土器の焼成方法及び黒斑を考察。
4	歴史の再発見 ～町に物語を～	全国の地域活性化の現状と課題を調査するとともに、青谷の歴史学習を通じて地域活性化策を考察。
5	因州和紙の活用 ～使い捨てない食器の開発～	青谷の伝統産業である因州和紙を使い、和紙をもっと身近な存在とするための食器開発。
6	青谷木綿の活用 ～木綿を身近に感じてもらうために～	青谷木綿の歴史を学ぶとともに、綿繰りから木綿作品作りまでを実践し、青谷木綿の地域への浸透方法及び活用方法を考察。
7	青谷の塩	世界の製塩を学ぶとともに、鳥取の製塩の歴史を調査し、青谷海岸の海水を利用した商品を考察。
8	青谷の特産品の商品化	青谷の新しい名所や特産を考察することを通じて、甘長とうがらしを栽培するとともに本校オリジナルの甘長とうがらしみそを開発。
9	町づくり ～青谷町未来図～	青谷町の観光客減少や若者の流出の現状を学ぶとともに、地域の資源を活用した観光客誘致策を考察。
10	青谷の観光	青谷の見どころ、PRしたい場所や店舗をピックアップし、青谷町の観光パンフレットを作成。また、店舗と協同して弁当のメニューを考案。

(3) 青谷地域美化活動

○thanks a oya flower事業

→青谷駅、あおや郷土館など地域の施設に草花プランターを飾る。

(4) 保育実習

○すくすく保育園保育実習（3年次）

→「子ども文化」の授業の中で、年3回保育実習を実施。

(5) ボランティア活動の推進

○保育ボランティア支援

→地域のすくすく保育園の土曜保育の手伝いを、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら2回行った。

4 総合所見（成果・評価）

令和3年度もコロナ禍により、「あおいち」など地域と連携したボランティア事業が実施できなかった。そのような中でも、延べ150名にも及ぶ地域の方々を中心とした外部人材の活用により、感染症予防対策を講じながら、地域連携の取組を実施することができた。地域の方々の支援に感謝したい。地域連携の取組をとおして、生徒はコミュニケーション力、プレゼンテーション力や人間関係形成力などを向上させ、自己肯定感も高めることができた。特に、地歴甲子園における最高賞受賞は、当該生徒はもとより、他の生徒へもよい影響を与えるとともに、「やればできる」という自信にもつながったに違いない。今後も、課題探究（令和4年度より青谷学Ⅱ）や青谷学（令和4年度より青谷学Ⅰ）の取組を中心に、地域の活性化に貢献したり生涯学び続ける人材を育成したりできるよう取り組んでいきたい。

※枚数任意